

平成 26 年 11 月 7 日

会 社 名 石 垣 食 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 石 垣 裕 義
(JASDAQ・コード 2901)
問 合 せ 先 経 理 部 経 理 課 課 長 小 西 一 幸
電 話 番 号 03-3263-4444

(訂正)「平成 27 年 3 月期 第 1 四半期決算短信」の一部訂正について

平成 26 年 7 月 31 日に発表した「平成 27 年 3 月期 第 1 四半期決算短信 [日本基準] (連結)」に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。(訂正箇所は____線で示しております。)

記

< 2 ページ > 1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

【訂正前】

当第 1 四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業が減収減益、珍味事業は黒字化を果たしたものの減収で、利益も低水準にとどまったことから、売上高 150 百万円 (前年同四半期比 17.9%減)、営業損失 10 百万円 (前年同四半期は営業損失 6 百万円)、経常損失 10 百万円 (前年同四半期は経常損失 5 百万円)、四半期純損失 10 百万円 (前年同四半期は四半期純損失 1 百万円) となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲料事業

販売競争の厳しい麦茶に加え、昨年テレビの健康番組で紹介され一時的なブームが発生した杜仲茶、一昨年のブームからの大きな反動が続くごぼう茶、烏龍茶ともに減収となり、売上高 75 百万円 (前年同四半期比 20.2%減) となりました。

損益面でも、生産量減少に伴う採算悪化により減益となり、営業利益 14 百万円 (前年同四半期比 24.6%減) となりました。

② 珍味事業

ビーフジャーキーは、既存商品の競争激化、春に投入した新商品が期待したほど増収効果を発揮しなかったことから減収となり、売上高 72 百万円 (前年同四半期比 15.9%減) となりました。

損益面では、前期後半に実施した内容量減少に伴う実質値上げと、原材料の切替えが奏功して黒字化を果たしましたが、円安による採算悪化は如何ともし難く、営業利益 3 百万円 (前年同四半期は営業損失 4 百万円) と、低水準の利益にとどまっております。

③ その他

業務用ナルトが前年を大幅に上回る好調となったことから、売上高 1 百万円 (前年同四半期比 10.4%増)、営業利益 0 百万円 (前年同四半期比 147.0%増) となりました。

【訂正後】

当第 1 四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業が減収減益、珍味事業は黒字化を果たせず、利益も低水準にとどまったことから・・・(省略)

① 飲料事業

(省略)

損益面でも、生産量減少に伴う採算悪化により減益となり、営業利益 10 百万円 (前年同四半期比 48.6%減) となりました。

② 珍味事業

(省略)

損益面では、前期後半に実施した内容量減少に伴う実質値上げと、原材料の切替えが奏功して採算は若干改善しましたが、円安による採算悪化は如何ともし難く、営業損失 0 百万円 (前年同四半期は営業損失 4 百万円) と、低水準の利益にとどまっております。

③ その他

業務用ナルトが前年を大幅に上回る好調となったことから、売上高 1 百万円 (前年同四半期比 10.4%増)、営業利益 0 百万円 (前年同四半期比 71.4%増) となりました。

以 上